



震災の記憶を忘れない～東日本大震災から10年～

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、仙台湾南部海岸では、全ての区間で津波が海岸堤防を越流し、繰り返す津波や引き波により、堤防決壊や消波ブロックの飛散、堤防裏法面の流出、背後地盤の洗掘など、約25kmにわたり甚大な被害を受けました。

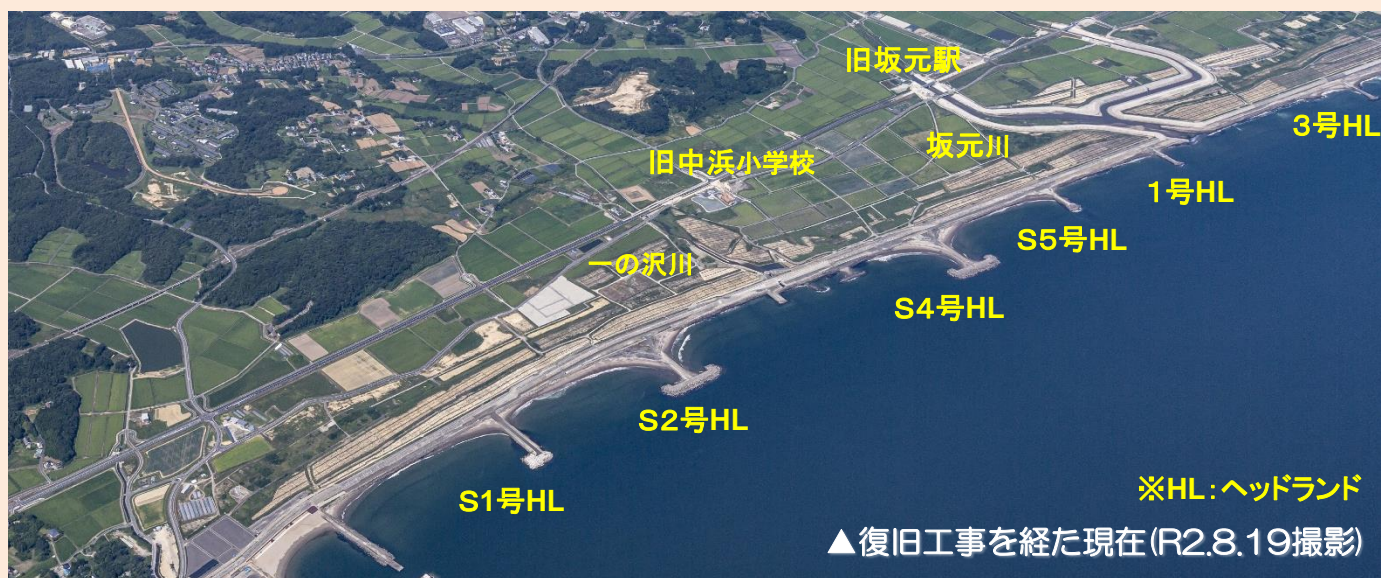
国土交通省は、同年3月30日に宮城県からの緊急要望を受け、県の代行として防潮堤の復旧に着手しました。

震災直後の状況では地盤が流失し、沿岸の被害状況の把握や復旧計画策定、復旧工事は困難を極めましたが、施工方法の工夫や環境配慮に取り組みながら、復旧に携わった多くの方々の努力と、関係機関ならびに地域の皆様のご支援・ご協力により、6年後の平成29年3月に防潮堤の復旧が完成しました。

しかし、防潮堤は、全ての津波を防護できません。

国土交通省では、関係機関とともに、皆さんの避難を軸とした「多重防御」による安全なまちづくりを進めています。

皆さん一人一人が防災訓練への積極的な参加をはじめとした高い防災意識を持つこと。震災について風化させることなく伝え続けていくこと。それら一つ一つが「多重防御」の根幹をなす大切な要素となるのではないのでしょうか。



◎仙台湾南部海岸の堤防は、減災効果を目指し構造上の工夫をしていますが、全ての津波を防げるわけではありません。

津波注意報や警報が発令された場合は、ただちに高い所へ避難しましょう。

「最大クラスの津波」

